

VR (Virtual Reality) が注目を集めた Computex2016

台北市コンピューター協会東京事務所 駐日代表 吉村 章

「交流」11月号に続き、Computex2016をレポートする。今年のComputex2016では、新たにベンチャーイベントであるInnoVEXが5月31日から3日間、信義区の世界貿易センター第3ホールで同時開催され、ベンチャー企業の出展を中心にセミナーやピッチイベントなどにより国内外から注目を集めたものとなった。

■製品レポート(13) スマートマフラー/室温をではなく体温を下げるという発想

◇MOAI Electronics Corp. (奇岩電子)

<https://www.moai.com.tw/>

中国語の製品名は「智能温控圍巾」とあった。真夏の暑い日、エアコンで部屋の温度を下げるのではなく、この装置を首にかけて体温を下げて涼むというユニークな製品。写真のように首にかけて使う。首を通る血管を冷やしたり温めたりすることで体温調整を行う。担当者によると「エアコンの消費電力の数十分の一のエネルギーで体感的な涼しさを実現させる」という。確かにブースで説明を聞きながらこのスマートマフラーを1~2分つけていたが、けっこう涼しくなってきたり快適だ。夏の暑い日にひとつの部屋ではなく、複数の場所で作業をしなければならない時はいいかもしれない。モバイルバッテリーが付いているので装着したまま移動したり、外に出て使ったり、なかなか機動的だ。最新技術の粋を結集したハイテク製品ではないが、けっこう使えそうだ。こうした製品が登場するところがComputexのおもしろさのひとつでもある。最新モデルでは音楽が聞けるように改良したイヤホン搭載モデルになる。ブースにはプロトタイプがあった。今後もよりいっそう進化させていくアイ

ディアがあるという。(写真13-1、写真13-2)



写真13-1



写真13-2

■製品レポート(14) 日中の猫の行動がわかる「iPet mini」 by TraceEZ

◇ Tracker Technology International Corp (恠欣科技)

<http://www.traceez.com>

GPS 機能で迷子になったペットが追跡できる。日中の猫の行動がトレースできる。生活防水機能、重さ 30 グラム、小型、軽量、コンパクトな点が特徴。小型化でペットにも負担にならない大きさと重さを実現した。付属品には簡単に取り付けられるアタッチメントがある。これを使えばペットの首輪への装着や取り外しもワンタッチだ。たとえば、郊外の広い公園でリードを外して愛犬を自由に走り回らせる。仮に、犬の姿が見えなくなってもスマホを使ってどの方向に犬がいるか知ることができる。「迷子の探索や行動追尾という使い方限定するのではなく、日常の散歩用としていろいろと使い方を工夫してほしい」と担当者はコメントする。Tracker Tech (恠欣科技) では、他にも車やオートバイなど盗難にあった愛車の追跡ができる製品、子供の見守り専用の製品など、さまざまな製品を開発している。(写真 14)



写真 14

■製品レポート(15) PM2.5、CO2、温度/湿度センサー搭載/Air Monitor

◇ Microelectronics Corp (擊亜國際科技)

<http://www.air-mentor.com>

Computex2015 にも出展。Computex Best Choice AWARD を獲得して注目を集めた製品。二酸化炭素、一酸化炭素、トルエンやフロンやホルムアルデヒドといった揮発性有機化合物、PM2.5 や PM1.0 といった空地中の浮遊微粒子、そして温度、湿度、この 6 つの指標で室内の「気質」(空気状態の良し悪し/空気の品質) を測定する。問題がない状態であれば表面のランプは「ブルー」が点灯する。警戒度が高まるにつれて色は「ブルー」から「緑」、「黄色」から「オレンジ」と変化し、警戒レベルが最高値に達すると表示の色が「赤」になる。アラートレベルに応じて、マスク利用の推奨、空気清浄機の利用、外出を控えるなど、適切な措置を取るようユーザーにアドバイスする。コンパクトで携帯もできる。(写真 15)



写真 15

■製品レポート(16) スマホに装着するとスマホがその場で顕微鏡になる/uHandy

◇ Aidmics Biotechnology (億觀生物科技)

<http://www.aidmics.com/>

アタッチメントを使って簡単にスマホに装着できる。スマホがその場で顕微鏡になる。大きさは直径 55mm、高さ 25mm、重さ 65g、機能としては 1 μ m (0.000001m) までのものを見ることができる。ホームページの動画では、子供が郊外学習で最終した昆虫や花の種をその場で標本にして、uHandy で詳しく調べている様子が紹介されている。顕微鏡で観察したものをその場で撮影し、画像や動画として保存することもできる。コンパクトで持ち運びもできるおしゃれなデザインの顕微鏡だ。(写真 16)



写真 16

ここからは Computex2016 のブースの片隅で見つけたさまざまな製品を取りあげる。帰国後に実施した Computex 視察報告会でも紹介した。毎年、Computex では有志を募り、オモシロ製品や隠れたスグレモノを探す「Computex オモシロ・グッズ探検隊」を行い、会期後の 6 月下旬には報告会を行っている。ご興味をお持ちの方、問い合わせ先は TCA 東京事務所/ippc@tcato-kyo.com まで。

■製品レポート(17) クラウドで管理するハイテク水槽

クラウド環境で管理されたハイテク水槽。独自のセンサー技術を使って、熱帯魚の水槽や鯉の池

などの環境チェックができる。温度や水質など最適な生育環境を管理したり、カメラを通じて自宅にいなくても熱帯魚を鑑賞したり、愛好家にはうれしい機能を搭載。価格は 400 米ドルから 600 米ドルを考えているようで、各種のセンサーとオプション機能を追加することによって自分だけの水槽にカスタマイズすることもできる。愛好家にとっては決して高くない(?) ハイテク水槽になりそう。AKUBIC は第 3 ホールの InnoVEX ベンチャーエリアに出展していた。(写真 17-1、写真 17-2)



写真 17-1



写真 17-2

■製品レポート(18) ワイヤレス・マイクロホン・レシーバー

デジタル 2.4GHz バンドのワイヤレスレシーバー。簡単に装着するだけでマイクの音を飛ばすことができる。発信側は首からさげたり、上着の胸ポケットに入れたりして持つ。受信側はピンプラグをそのままミキサーやPAスピーカーに差し込むだけで使える。アコースティックギターやウクレレのピックアップとして使ったり、デジタルカメラで撮影した画像や動画を音声付きで転送したり、使い方は工夫次第だ。この製品も決してハイテクではないが、現場で何か実用的に使えるような製品。ありそうでなかったを実現した台湾企業らしい製品だ。(写真 18-1、写真 18-2)



写真 18-1



写真 18-2

■製品レポート(19) 自転車用 LED ライト

車輪のハブに取り付けることによってタイヤのリムを光の点で照らす。写真 19-1 のように前輪に4つの白い点、後輪には赤い点が浮かび上がる。実際、タイヤが回ると映し出された光はかなり目立ち、周囲の目を引く。被認知度が高まり、安全性とファッション性を兼ね備えた製品だ。もちろん前向きには白いライト(ヘッドライト)、後ろは赤いテールライト。ファッションナブルなだけではなく、ライトとしての機能も十分果たす。低い位置にライトがあるので前方の道を明るく照らすヘッドライトとしての機能も十分。車輪のハブの部分にアタッチメントを装着しておけば、ワンタッチで取り外しが可能。ライトの盗難にも配慮した設計だ。(写真 19-1、写真 19-2)



写真 19-1



写真 19-2

■製品レポート(20) 脳の発信される電気信号をセンシングしてスイッチのオン・オフ装着したヘッドギアで人間の脳波を感知し、オン・オフのスイッチを作動させる。ブースではモニターに映し出された宇宙船を飛ばすデモを行っていた。第3ホールのInnoVEXベンチャーブースに出展。家電をリモコンで操作するのではなく、腕の動きや手の動きでスイッチをオン・オフするモーションキャプチャーの技術は実用化に向けてだいぶ研究が進んでいる。一方、脳波を使う技術(ブレイン・マシン・インターフェイス)はこれよりさらにもう一步進んだ技術だが、決して遠い未来の技術ではない。これは手や腕の動き、筋肉の動きや瞳の動きではなく、脳から発信される電気信号をセンサーが捉えて動作の意味付けをする。まるで超能力のようだが、実用化に向けて精度の向上と脳波測定時間の短縮のため研究が進んでいる。(写真20-1、写真20-2)



写真 20-1



写真 20-2

■製品レポート(21) ローテク・ウェアブル・グラスはどんなテクノロジー?

一見するとたいへんスタイリッシュなウェアブル・グラスだ。(写真21-1)最先端のAR技術(Augmented Reality)、拡張現実感が体験できる製品のようにも見える。デザインの完成度も高いところが…。写真の製品は単なる眼のマッサージ器。スイッチを入れると裏側の突起と先端に取り付けられた小さな磁石が振動して眼の周辺をマッサージする。電池、モーター、振動だけの極めてローテクのマシン。ブースでのサンプル価格は100元(およそ400円)だといふので、思わずその場でひとつ購入した。ComputexではVR(Virtual Reality)とか、AR(Augmented Reality)とか、ハイテク技術の傍にこんな製品が展示してある。このギャップもComputexのおもしろさだ。(写真21-1、写真21-2)



写真 21-1



写真 22-1



写真 21-2



写真 22-2

■ 製品レポート(22) スマホ、クラウド、Wi-Fi 経由で家電をコントロール

今年はこの種の製品の出展をあちこちのブースで見かけた。外出先からスマホを使ってエアコンのスイッチを入れたり、照明を点けたり、家庭内の電気製品をコントロールする。また、ロームは Wi-SUN モジュールを搭載した HEMS の IoT ゲートウェイを展示。家電コントロールの説明パネルの前にはたくさんの人が集まっていた。(写真 22-1、写真 22-2、写真 22-3)



写真 22-3

■製品レポート(23) 360° VR カメラ

もうひとつ、あちらこちらで見かけたのが360° VR カメラ。VR時代の到来を予見してか、さまざまなタイプの製品が出展されていた。VRカメラで環境を撮り込み、専用アプリを使って、高性能ゲームマシンで、ヘッドマウント・ディスプレイを使った自作のコンテンツを作る。そんなことができるようになる時代がもうすぐそこまで来ている。来年の Computex の VR 関連の出展製品が楽しみだ。(写真 23)



写真 23

■製品レポート(24) 双方向のデジタルサイネージボード

さまざまなセンサーを装備し、街中のデジタルサイネージボードが双方向でやりとりができるようになる。写真はこのサイネージボードの前に立った人を時間ごとに集計するデモ。表示広告を見た人を集計するとか、相手に合わせて表示する広告を変えるとか、さまざまな使い方が考えられる。この製品はブースの一角で地味な出展だったが、すぐにでも実用化できそうなサイネージボードだ。ちなみにロボットの手のような白い腕は何

か機能があるのかと思ったら、完全にダミー。飾りだけだった。(写真 24)



写真 24

■製品レポート(25) もうひとつのデジタルサイネージボードの進化形(?)

タイトルにはロボット(?)とあるが、ロボットらしき部分はディスプレイの眼だけ……。腕もなく、二足歩行でもなく……。受付ロボットか、キヨスク端末的な位置づけか……。センサーとディスプレイを最大限活用した機能重視のロボット(?)と言えるだろう。ただのデジタルサイネージボードのようにも思える。左手のロボットにはプリンターが搭載されている。使用用途によって専用アプリを開発して、使い方を工夫すればたいへんコストパフォーマンスのいいロボットになるかもしれない。ブースではゆっくり説明を聞くことができなかったのが残念。さまざまな模索の中でいろいろな提案があるのも Computex の魅力。実は完成させた製品より、模索段階の製品のほうがおもしろい。Computex とはそんな展示会だ。(写真 25)



写真 25

■製品レポート(26) レーザー光線でテーブルにキーボードを映し出す/Serafim iKeybo

製品名は「iKeybo」、Computex Best Choice AWARD を獲得したマルチファンクションキーボード。キーボードと紹介したが製品分類はスマホスタンドだ。Serafim が独自技術で開発。レーザーでキーボードやピアノの鍵盤が映し出されて実際に操作ができる。キーボードは多言語対応。英語、中国語、さらにスペイン語、アラビア語仕様のキーボードまで映し出すことが可能だ。(写真 26)



写真 26

■製品レポート(27) 裏返しても使える USB ケーブル

通常の USB は差し込む方向が決まっているが、これは上下を逆にしても差し込むことができるというすぐれもの。差し込もうとしてうまくはまらず、裏返して差し込み直すという必要がない。どちらを上にして差し込んでも一回でフィットする。写真左手の差込口の中央にあるプラスチック部品が上下する。弾力性を持たせて、軽くフィットする構造にしたところが工夫ポイント。残念ながら金属部分は通常の USB より若干厚め。デザイン的には残念なところだが、機構的にはしかたないのかもしれない。担当者によると 10 万回の抜き差しテストを行い、日本でも特許を取得したという。目立たないブースにあった隠れたスグレモノ製品。「オモシロ・グッズ探検隊」の友人が発見した。(写真 27)



写真 27

■製品レポート(28) 車のエンジンが起動できるモバイルバッテリー

昨年の Computex で見かけた製品だが今年はこちらのブースで目にした。いいものは増殖する。市場のニーズがあることの証明だ。この製品は一回の充電で 5～6 回程度、エンジンの起動ができる。万一のときに JAF を呼ぶ必要なし。わざわざ購入してまで車に装備しておく必要はな

いかかもしれないが、仕事で車を使う機会が多い人は普段はモバイルバッテリーとして使い、万有的时候にはエンジン起動に使える。便利なモバイルバッテリーだ。ライトが搭載されていて暗い場所での作業にも配慮。非常時には懐中電灯としても使えそう。誰かが出したアイデアが市場で評価されるとあっという間に製品化が進む。ビジネスはスピードが命。プロトタイプの出展から製品が普及していくまでのサイクルを肌で実感できるのも Computex のおもしろさのひとつ。もちろん、アイデアだけ、またはプロトタイプだけで消えていった製品も数多い。毎年 Computex を観察しているとそんなことも実感できる。(写真 28)



写真 28

■製品レポート(29) スマホに繋いで使うポータブル扇風機

パソコン用の USB 扇風機はかなり昔からあった。それでもプロトタイプの実機が Computex に初めてお目見えした時にはかなり衝撃的だった。その後、USB 鉛筆削り、USB 卓上掃除機(机の上の消しゴムカスを掃除するためのもの)、USB カップウォーマー、トイレホルダー一体型の USB スピーカーといった製品が現れては消えていった。写真の製品はスマホに繋いで使う扇風機だ。

絶対にいつか出ると思っていたらやはり出た。使い勝手はともかく、こんな製品を見つける楽しさが味わえるのが Computex だ。(写真 29)



写真 29

■製品レポート(30) ワイヤレス・イヤホン /ERATO Appolo7

イヤホンコードに煩わされることなくハンズフリーで音楽が楽しめるイヤホン。これはたいへん便利。大きさはφ 15.4mm x 22.2mm、本体重量 4.0g、防水機能あり。イヤホンはコンパクトなケースにきれいに収まる。ケースはスタイリッシュで洗練されたデザインだ。ホームページでは Appolo 7 してジョギングをするシーンや音楽を聴きながらのエクササイズ、サーフィン(?)のシーンが紹介されている。注目の製品はバイヤーからの引き合いも多い。逆にバイヤーの立場から見ると、世界中から集まるバイヤーは Computex で面白い製品をいち早く見つけ出し、独占的な販売権を獲得することが毎年 Computex に来る目的でもある。サンプルを購入しようと思ったが 300 米ドル前後とちょっと高かったので断念。しかし、それだけの価値はある製品かもしれない。(写真 30)



写真 30

Computex2017 は 2017 年 5 月 30 日 (火) から

5 日間の会期で開催される。TCA 東京事務所では 4 月下旬に Computex 事前勉強会、6 月下旬に Computex 報告会を予定している。2017 年も「Computex オモシロ・グッズ探検隊」を実施予定。現地集合・現地合流で情報交換をしながら、Computex をみんなで視察するイベント。帰国後、Computex 報告会では各自が見つけてきた製品に対して「Computex Katte Award」(スグレモノまたはオモシロイと思った製品を勝手に表彰する)も実施する。参加無料興味がある方は、ぜひ TCA 東京事務所 までご連絡ください。Taipei Computer Association 東京事務所 ippc@tcato-kyo.com